



ROLL BACK MALARIA

2010年までにマラリアによる被害を半減させよう！
ロールバックマラリア共同事業に参加しよう！

マラリアは、寄生虫性疾患の一つで、感染している蚊に刺されて伝染します。ひとたび初期症状が表れますと、マラリアは、非常に早い死をもたらす可能性があり、また、事実それが起っています。毎年百万人以上がマラリアで死んでいます。そのほとんどが、5歳未満の子供です。アフリカでは、マラリアは、幼い子供たちに死をもたらす主な原因です。30秒に一人ずつの子供が死んでいるのです。

殺虫剤で処理された蚊帳は、正しく使用すると、蚊がこの病気を人々にうつすのを防ぐことができます。殺虫剤で処理された蚊帳の高度の利用によって、マラリアのみならずそれ以外の原因による子供の死の20%もが減ることが研究の結果わかりました。

マラリアと闘うための地球規模での努力を調整するために、世界保健機構(WHO)、国連児童基金(ユニセフ)、国連開発計画(UNDP)および世界銀行はロールバックマラリア(RBM)共同事業を発足させました。RBM共同事業とその幅広い協力者はこの病気に対する闘いのための専門的知識と基礎構造と資金を提供します。

ワイズメン国際協会は、他の団体と共に、マラリア撃退の地球規模でのパートナーになり、アフリカの一つの国(ケニア)でこのプロジェクト実現に協力することになりました。

目的：

- ・ワイズメンズクラブ国際協会に属するメン、メネットの皆さんに、予防接種、ビタミンA(または複合微量栄養素)を含む栄養補助食品、殺虫薬処理された蚊帳(および殺虫薬再処理キット)および家庭での発熱管理のための「プリスターパック」を内容とする梱包(マラリア感染予防パッケージ)20,000個を購入するための寄付を集めることをアピールすること。

- ・20,000個の蚊帳の梱包をロールバックマラリア共同事業およびアフリカのワイズメンズクラブやYMCAとの協力で配布すること。

実行計画：

- ・国際協会としての目標は蚊帳20,000張り150,000米ドル)とします。
- ・各クラブは、蚊帳の(一張り約\$7.5=西日本区では900円に設定)購入目標を何張りにするかを決めて下さい。
- ・全てのクラブは、10月24日の「国連の日」にこのキャンペーンの立上げの為の式典を行って下さい。
- ・各クラブで、医療の専門家を例会にスピーカーとしてお招きし、マラリアが世界において及ぼす影響についての理解を深めてください。
- ・YMCAの会員、その他ゲストを招き、キックオフの昼食会や夕食会を計画して下さい。そこでは、パワーポイントでのプログラムの説明(オンラインで入手できます)を行い、チラシを配布して下さい。そしてクラブの目標達成のための協力をアピールして下さい。
- ・広報のために：報道用資料(オンラインで入手できます)を地元のニュースメディアに送り、「国連の日」の式典への参加を呼びかけてください。
- ・クラブからの寄付は区理事に送ってください。区理事はそれを下半期の負担金と一緒に国際本部へ送ってください。国際本部は、梱包の配布のためにロールバックマラリア共同事業へそれを送ります。
- ・本計画の終了日：2009年3月31日
- ・クラブは国際的なドナーとして承認、表彰を受けます。
- ・注意：この活動は既に実行中のワイズメンズクラブ国際協会のプログラム(TOF、UGPとしてのHIV/AIDSキャンペーンなど)に取って代わるものではありません。



新しい重要プログラム・2010年国際大会

2008年10月24日「国連の日」、私達はワイズメン国際協会のメンバー、女性メンバー、ユース、そしてワイズメネットクラブすべてが参加する新たな短期プログラムを立ち上げます。各クラブはこの日のイベントを計画することによって、世界的規模のパートナーと手と手をとって「ロールバックマラリア」(マラリア撃退運動)を立ち上げるためにワイズの全組織を活性化しようとしています。ワイズメンズクラブ国際協会国連委員会は、ロールバックマラリアと銘打った運動を通して世界保健機構(WHO)が主催するマラリア撃退に協力するため、目標を蚊帳20,000張りの購入と決めました。

世界中の全クラブが10月24日の「国連の日」に何らかの形でこの運動に参加出来たら、ワイズ運動の力はどれほどのものになるか想像してください。世界中で相互に結ばれ、24時間中を通しての善意と献身は、人類全体のためによりよい世界を打ち立てるといったモットーの実現をもたらすことでしょう。

このマラリア撲滅プログラムの詳細、そしてワイズダムにおいてのその動きについては表紙をご覧ください。

クラブメンバーに伝えるためのパワーポイントのプレゼンテーションについては、国際ウェブサイト<www.ysmen.org>にアクセスしてください。この資料の翻訳については、エリアや区のリーダーにお尋ねください。

チラシは、IHQ(国際本部)から入手できます。あなたのクラブのイベントを地域にアピールするための、記事の見本も用意しています。このプログラムは2009年3月31日に終わりますが、それまでにはメンバーすべてがこの一大プロジェクトでその役割を果たされていることを望んでいます。

国際大会、国際議会、国際ユース・コンヴオケーション参加者に提示された上記の資料は、大いに刺激に満ち、意欲を喚起するものでした。あなたも、あなたのクラブも同じ感じを受けられるでしょうか。ワイズメン国際協会国連委員会は、皆さんがこの運動への熱意を持ち続けられ、このプロジェクトの大成功をもたらされるよう、期待いたします。

ワイズメン国際協会国連委員会のメンバーは下記の通りです。

前国際会長：オーレ・ハンセン、国際会長：V.S.バシール、直前国際会長：ラッセ・ベルグステッド、国際書記長：ロランド・ダルマス、前国際会長・YMCA 連絡担当：ラシェル・リークです。

第69回国際大会が2010年横浜で

2010年国際大会委員長
前国際会長 Benson Wabule

第68回デンマーク国際大会が終わりました。素晴らしい大会でした。今や次の大会の準備をして、そこで長年の友に再会し、新しい友人をつくる準備をしようではありませんか。



すでに次期開催地の日本でアジア地区藤井 AP の下で HCC が構成され準備が進んでいます。きっと思い出に残る素晴らしい大会になることは間違いありません。国際大会と同時に国際ユース・コンボケーション(IYC)も開かれます。青年のためにプログラムも準備が進んでいます。

私が是非みなさんをお願いしたいのは、今からその旅行のためにお金を貯金して、どうぞ家族で2010年に横浜を訪れる計画をはじめてください、ということです。きっと一生の思い出になるでしょう。是非、日本を訪問して何が日本という国を今日の成功に導いたかを知ろうではありませんか。日本の文化、日本人の心のこもったもてなしの精神を経験しませんか。日本的な効率の良さも学びましょう。横浜でお会いしましょう。



国際会長大いなる夢を語る

国際会長 V.S. Bashir

夢と思索と期待に満ちたワイズの新年度が始まりました。

新たな目標を目に見える形で実現し、変革をもたらそうという展望と熱意を持って、それぞれのエリアからの最初の活動報告を耳にすることを心待ちにしています。

08年国際議会の歴史的意義：

- 費やされた時間の50%が専ら将来についての議論に充てられた。
- 変革に向けて出席者全員の熱意を感じた。
- 国際議会歴史上初めて将来の長期目標を考え、ビジョン2020の草案を策定した。
- 国際議会は、09年6月末までに会員数を35,000人に増やすという目標を熱烈に支持すると同時に、この目標を達成できるという自信を深めてアクションプラン（行動計画）を示した。
- 国際会費の50%を支払えば26歳未満の全ての活動的なユースが正式会員としてクラブに入会する事を承認するという画期的な決定がなされた。

08年国際議会は、我々議員の新たな友情を育むと同時に、旧交を温める機会を与えてくれました。会員数35,000名達成、ビジョン2020、UGP等の重点分野について率直な議論が戦わされました。事実、それを通じて我々の熱意は更に強められ、奉仕への意欲も高められました。他年国際ユースコンボケーションにおけるユースの働きぶりには目を見張るものがあり、将来について大いなる期待を持たせてくれました。

ワイズメンと国連経済社会理事会との協力関係は、我々の奉仕活動に弾みを与えており、マラリヤ撃退プロジェクトは、この協力関係における歴史的事業となるでしょう。

科学技術の進歩は、人類に多くの問題を提起しています。

朝起きると自然災害、暴動、爆破事件、テロ行為など世界平和を脅かすニュースを耳にしない日はありません。ある国では食糧不足、日用品の価格高騰、天井知らずのインフレ等が我々のプログラムやプロジェクトの資金源を圧迫しています。会員の方々にこれ以上財政的な負担を強いれば、我々の組織にとって致命的な打撃を与えることになるでしょう。全ての進歩的な組織は、その活動の拡大に伴って要求されることも多くなります。我々の組織も例外ではなく拡大が、それとも組織の死かという二者択一の岐路に立っています。

ワイズ運動を強化する為に一人一人のメンバーが新入会員を一名入会させることを誓い、

希望の灯

を更に広げるといふ奉仕の為に共に努力しようではありませんか。

希望の灯となろう

ませんか。

最後に09年6月末までに会員数35,000名達成という私の大いなる夢を常に皆様の中に留めて下さるよう繰り返しお願い申し上げます。

08年度国際議会、08年度国際大会 に関する所感

国際書記長 ロランド・ダルマス

私は、2008年国際議会と国際大会が参加者に強い動機づけを与えたのを目の当たりにし、至福に満たされ帰国しました。この二つの国際的集会において二つの事が最も大きなインパクトを参加者に与えたと思います。一つは、世界レベルでのワイズ運動とYMCAとの紛れもない緊密な協働精神であり、もう一つはユースのワイズ運動参画の重点化とその確かな手応えです。

ご存知のようにワイズメンとYMCAとの関係は、地域社会、国、区、エリアによって極めて異なっています。ここ数年間、両組織は世界とエリアのレベルでその関係を重要視してきました。YMCA世界同盟副理事長サミュエル・スティーブズ牧師が世界同盟のワイズメンズクラブ国際協会リエゾン（連絡責任者）に任命されたことと、ラシェル・リーグ元国際会長がワイズメンのYMCA世界同盟リエゾン（連絡責任者）に任命されたことが相まって、ここ2年間で両組織の協働関係は、遥かにダイナミックかつ相補的なものとなりました。

ホレステプロで開催された国際議会にサミュエル・スティーブズ牧師が出席されたことは、我々にとって大いなる励みとなりました。国際議会での挨拶の中で同牧師は「間違いなく近年にも増して緊密な協働関係が築かれているという意識が、今我々の間に生まれつつある。それは漠然とした好ましい印象ではなく、具体的な好ましい結果となって表れている。」と述べられました。更に08年国際ユースコンボケーションにおいて「平和文化の構築」について基調講演をされ、参加した120名のユースの士気を大いに鼓舞しました。

YMCA世界同盟のマーチン・マイスナー理事長とバートン・シャハ総主事がヘアニングの国際大会に積極的に参加されたことは、両組織の緊密な協働関係を如実に示す例であったと云えるでしょう。

バートン・シャハ総主事は「希望の灯となろう」と題する心を揺さぶる基調講演を通じて国際大会の参加者を鼓舞されました。総主事は、基調講演の中で我々一人一人の内にある灯、洞察力を与える灯、そして現在痛みを苦しんでいる人々に希望をもたらす灯について述べられました。

マーチン・マイスナー理事長は開会式において世界中のYMCAを代表して挨拶をされ、閉会式では参加者に対して心に訴えるような言葉で語りかけてワイズメンの「ミッション」、「ビジョン」、「モットー」は、我々の運動の目的を達成する為に必要不可欠な道具であると強調

エリアの再編成

されました。

近年、ユースのワイズ運動への参画については、精力的な取り組みがなされており、その努力が素晴らしい成果を生みつつあります。国際議会の合間に我々は、国際ユースコンボケーションに参加しているユースを訪問する機会を得ました。それはユースに関わる諸問題に焦点を当てた極めて充実した話し合いの場であり、国際議会に向けて以下の報告がなされました。

a) 二年前に韓国の釜山で開催された前回のユースコンボケーション以来どのような進展があったかについての詳細な報告。b) 国際議会で検討されるべき 14 の提案を盛り込んだ文書。彼らは、この話し合いに参加することによってユースが組織としてどれほど成熟し、どれほど多くのユースがリーダーシップと責任感において成長したかを実証してくれました。

彼らは、閉会式に参加して国際大会に大きなインパクトを与えました。120 名のユースが大会の壇上で閉会の祈りを捧げ、ユースコンボケーションの報告をしたことには極めて意義深いものがありました。ユースがワイズメンズクラブと距離を置く別組織ではなく、ワイズの一部なのだという満足感に浸りながら私は、大会会場を後にしました。

ユースは、ワイズの未来を担う存在ではなく、我々の運動を現在進行形で支えているのです。彼らは、我々を鼓舞し、世界中のワイズメンに新たな活力を与え続ける主役であるべきなのです。

新しいパートナーシップ

カナダ & カリビアン地域会長

ビル・アーウィン

ラテン・アメリカ直前地域会長

シルヴィア・レイエス・デ・クロチ

カリブ海区は、一時ラテン・アメリカ・カリビアン地域の一部として、言葉やコミュニケーション費用という問題を抱えていました。

2001 年から区を分割する協議が続けられて、カナダ地域と合併してはどうかという示唆がありました。イギリス連邦のメンバーでないのはアルーバだけで、言語が同じでカナダに近似性を持っているという点がこの示唆の論拠でした。協議機関中、旧 LAC 地域は経費の検討はせず、両区と勿論カナダ地域のメリットを見出すことに集中しました。

こういった検討の結果、ラテン・アメリカ・かノブ海エリアとカナダエリアは、カリブ海区をカナダに移すことに合意し、2008 年 7 月 29 日にデンマーク、ホルステブロで開催された国際議会でのこの旨の提案が採択されました。その合意書がカナダ地域会長、ビル・アーウィンとラテン・アメリカ・カリブ海エリア会長、シオニデス

(ニーナ)・ドス・レイス・クリアの間で取り交わされ、カリブ海区区理事、モリーン・ホイテに送られ、署名されました。

その結果、両エリアは、ラテン・アメリカエリアとカナダ・カリブ海エリアという呼び方に変わりました。

カリブ海区には、下記の 8 つのワイズメンズクラブがあります。

| | |
|---------------|------|
| アルーバ | 23 名 |
| キングストン | 6 名 |
| メイ・ペン | 12 名 |
| サバナ・ラ・マール | 1 名 |
| ポート・オブ・スペイン | 23 名 |
| トバゴ | 5 名 |
| セント・ジョージ・イースト | 1 名 |
| ブリッジタウン・バルバドス | 15 名 |
| 合計 | 86 名 |

さらにカリブ海区には、ジャマイカ、サバナ・ラ・マールにメネットクラブ一つと、非常に強いユース連動があります。数ヶ月前にバルバドス、ブリッジタウンにユースクラブが誕生し、もうすぐジャマイカのキングストンにも新しいクラブをチャーターする予定です。カナダエリアには、カリブ海区がユースクラブを立ち上げるに当たっての考え方を大いに活用するメリットが生まれました。

このチャレンジ精神が、カナダ・カリブ海エリアの成長と発展につながると同時に、ラテン・アメリカエリアのメンバーの回復と増強への努力により影響を与えることでしょう。



3ヶ国に新クラブ設立

ラテン・アメリカエリア副編集長

シルヴィア・レイエス・デ・クロチ

ラテン・アメリカエリアは、ラテン・アメリカ・カリブ海 YMCA 同盟とのよい関係を永年に渡って育ててきました。タイム・オブ・ファストの援助と YMCA のスタッフのための ASF 基金を通しての援助を通して我々

の協力は活発に行われました。この6月には、国際書記長ロランド・ダルマスの努力によって、ニカラグアのマナグアとエクアドルのキトに新クラブが誕生しました。また、コスタリカのサンホセでも新クラブが設立され、そのクラブには早くもカナダのオーウェン・サウンドクラブが「コスタリカに灯りを」と銘打った最近の TOF 活動のサポートをはじめました。

ワイズメネット国際主任から

ワイズメネット国際主任 キャロル・レイノルズ
デンマーク区の皆様、素敵な国際大会を有難うございました。Herning 市は美しく、今回の訪問をとっても楽しみました。沢山のワイズメネットにお会い出来たのも嬉しく、変わらないお支えには感謝です。大会直前、ワイズメネットの皆様を代表して国際議会に出席しました。ワイズメン国際協会は私たちワイズメネットの活躍を高く評価し、今後も支援が継続されるように期待しています。

私は、地域の主任の皆様と協力して早速活動をはじめたいと願っています。新しい主任も誕生していますので、情報はここ2-3週間のうちにお伝えします。

皆様が変わらないお支えと献身的なお働きに対して重ねてお礼を申し上げます。

YMCA 研修実行中

ウガンダ、カンパラワイズメンズクラブ
パトリック・オコット

チャレンジ 21 という、ユースリーダーを育てる事業はタイ国のバンコックとチェンマイで、YMCA 世界同盟に属する各国 YMCA の青年リーダー育成を目的として設立されました。

このプログラムは、グローバリゼーション、人脈づくり、ユース運動づくり、地球市民、YMCA 活動との連帯に焦点をあてています。ウガンダから私、そして日本から橋崎頼子さん、私達ワイズメンにとっての課題でもあり、現実化もされているこのプログラムに参加できたことは大きな特権でした。

このプログラムで、私達はいくつかの分科会に分かれ、私は環境維持とエネルギー保護、橋崎さんは子供労働者とストリート・チルドレンのグループに分けられました。私はチェンマイのサオ・ヒン YMCA のひとつの事業を訪問することが出来ました。そこでは、サオ・ヒン YMCA は YMCA 北部開発基金 (YDNF) と連携してこのプロジェクトを進めていて、有機農業、森林保護、水質検査、地域植林などの説明をしてもらいました。また、私たちは、その事務所でこれらのプロジェクトを運営している担当者と話し合いを持った後、サオ・ヒン YMCA のプロジェクト・サイトを訪ねることが出来ました。

希望の灯となるう

私達は、まず最初に、マエブカ河の堤防近くにあるマエブカ村にあるマエブカ小学校を訪問しました。サオ・ヒン YMCA はその小学校を権利擁護および環境維持プログラムで支援しています。その河はまた生徒達が調査材料として利用しています。ワイズメンとして、われわれは、活発な奉仕を通して地球を全人類にとって住みやすい環境にするためにがんばる存在である限り、この世界温暖化問題に集中して取り組まなくてはなりません。私達は環境のために何かをなさねばならないのです。われわれが唯一出来る事は、セミナーを開いたり、キャンプをしたり、教育をしたりして、人々の認識を深めるよう働きかけることです。

そして、その対象となる人々および NGO の諸団体とネットワークを結ぶことが必要です。

私が所属しているクラブや YMCA によりよく奉仕することができるように多くの学び機会を与えてくれたワイズメンズクラブ国際協会に感謝申し上げます。

指導者のために私達のできること

キリスト教強調国際事業主任
ラッセル・ジョーンズ

私達は指導者を任命しました。彼らが組織の継続と方向性を確立する能力と見識を持ってくださることは私達の願いです。指導者たちには正しい判断のための知恵と、すべての会員から尊敬と協力が得られるようなやり方で、決定した事を行うようにするための忍耐が求められています。

では、私達自身は、どのように指導者たちを支えていけるのでしょうか。ワイズメン国際協会はイエスの教えに基礎をおいています。イエスは自分自身と共に他者が必要とするもののために祈り、弟子たちにもそれにならう様すすめられました。

信仰と祈りの生活を送っておられるワイズメンの皆様、その祈りの中に私達の指導者のことを覚えてください。そして、指導者が賢明な決断をするための知恵と、その決断が実り豊かな結末を生むように努力する忍耐を受けられるように祈りましょう。私達の祈りはまた決定されたことを達成するために自分の果たすべき役割に対する祈りでもあります。もしそれが会員増強への呼掛けであるなら、クラブの例会に人を誘うための勇気が与えられる様に祈るのです。又もしファンドが必要なら、目標を達成するための知恵が与えられる様に祈るのです。

イエスが示されましたように、祈りをとうして思いにまさる力が与えられます。

国際会長標語、デンマークの取り組み、IBC

「国際会長の標語に答えて」

前キリスト教強調国際事業主任

V. M. John

IP V.S. Bashir の選んだ 2008/09 年の標語 “喜んで分かち合おう” は皆さんが真剣に取り組めば私たちの世界を神の望む姿に変えられることを語っている素晴らしい標語です。

皆さんの毎日の朝食を考えてみてください。その食事の中身の生産にどれだけの人々が関わっているのか、そして、皆さんが満たされた朝食に満足している間に、一方で世界のいたるところで飢えの苦しみに亡くなっていることです。そのような飢え苦しんでる人々と皆さんの朝食を分かち合えないのは悲しいことです。しかし、いつか彼らと一緒に食事を分かちあえる時がくるでしょう。なぜなら、私たちに求められているのは分かち合う共同の技なのです。

私たちはお互いの隣人を愛しあわねばなりません。世界のすべての人々は隣人なのです。

どうか今年もワイズの精神で喜んで分かち合える幸せな世界が実現することを神に祈ります。

安全な未来

次期デンマーク区理事

ジャコブ・クリステンセン

ワイズメンズクラブ国際協会デンマーク区は、2004年に薬物に対する撲滅に取り組むことを決めました。その対象はその時もそうでしたが、今も若者やその親たちです。

薬物や薬物乱用のことを知って、伝えてもらう為に、<<http://www.boernogstoffer.dk>>というウェブサイトを立てました。

今このホームページには一年に 68,000 回、毎日平均 100 回の閲覧があります。このサイトから、今日のデンマークの若者の環境が若者にどう影響しているかに関する背景的な知識を若者にも親たちにも提供する記事を得ることができます。薬物に関する記事が満載です。例えば、ライターガスの吸引に含まれる危険性、合法薬物であるアルコールに関する情報、親たちが集まる場所での「大麻」に関する話し合いの重要性等々です。

ホームページを訪ねて来た人の多くには、沢山の情報カードを提供しています。これは過去数年間ホームページについて若者に知らせるために送ってきたものです。また、地元の行政組織が「子供と薬物」というサイトを参照することができるように許可を与えてきました。また、このサイトにリンクしている学校のウェブサイトもいくつかあります。

この教育活動に続いて、以前薬物乱用者だったラースイエンセンの生活の有様を取り上げた「スライド - 子供と薬物 -」の DVD を作成中です。



その DVD で、ラースは子供時代と青年時代、そして、一人の大臣が行政の仕事に従事するよう彼を招いた時に禎に起こった事柄について語っています。子供と薬物に対するプロジェクトは向こう 3 年間は続けられるでしょう。DVD が世に出た時、薬物乱用について若者達が、お互いに知識を交換し合うことが本当に必要なのかどうかを判断するために、さらに調査を行うことを計画中です。

我々は、次のステップへ進む中で、インターネット上で意見箱をつくり、画像の向こう側に居る若者たちが持っている質問に対して、生徒や大人達が協力して答えることのできるようにしたいと思っています。

問題はこれからもなくなりません。だから、我々はその解決を見つけるために苦闘を継続することが必要なのです。

「ワイズの IBC の交わり」

IBC 国際事業主任

Wichian Boonmapajorn

第 68 回国際大会での国際 IBC プログラムの会場は一言で言うなら “希望の灯” と表現できるほど、時間と努力を費やすに値する素晴らしい光景でした。会場ではブラザークラブの仲間が集まり、お互いにクラブ、家族の紹介をし、再会を抱き合って喜び光景が見られ、ワイズの IBC ならではの場となりました。

PISD - IBCJ、ジョセフは 08 年議会に 2007 / 08 年度の IBC 事業に関して 14 の IBC 締結と 4 の IBC トライアングルが成立した旨の報告がありました。国際大会初日から IBC 事業は盛り上がり、西日本区の芦屋クラブが、ブラザークラブを求むというポスターを掲示し、クラブと会員の紹介をしていました。これは自分のクラブ紹介としては最善の方法でした。その結果、豪州のエチエカクラブ (Echuca Club) との IBC が成立しました。

デンマークのランダースクラブ (Randers) は 1964 年に生まれた古いクラブで、2003 年生まれのブルガリアのプロデーウクラブ (Plovdiv) のスポンサークラブになりました。2003 年以来、IBC 関係にあります。一方、横浜ツズキクラブは設立以来 2 年の若いクラブですが、デンマークに IBC クラブを求めていました。これらに 3 つのクラブが大会場にて IBC トライアングルを締結しました。この横浜のクラブはランダースクラブを大会前

希望の灯となるう

に訪問しており、さらにブルガリアのブロードウクラブを日本への帰国前に訪問予定です。

来る2010年の横浜国際大会ではIBC事業を強調する意味からもデンマークと同じような会場と時間を必ず設ける計画です。

私の貴重な経験

2007/08 ユースインターン

Aeree Baik 韓国

私はワイズメンズの国際本部でユースインターンをし、この11ヶ月間、IHQのスタッフのサポートを受けながら素晴らしい経験をしました。私がジュネーブに来る前には想像もなかった色々な事を学びました。その一部をご披露しましょう。

ユースインターンの仕事の一つとして、2008年夏にデンマークで行われた国際ユースコンボケーションの企画がありました。正直言って、ユース・コンボケーションは単なる若者の集まりであり、国際友好のキャンプのようなものと思っていました。しかし、国際書記のロランド氏に、これはワイズユース運動を盛り上げる最適な手段であると説得され、本当に成功させなければならぬという思いで真剣に取り組みました。この大会のファシリテーターは、いかにワイズ運動の中にユースを取り込んで行くかということに焦点を当てました。そして「リーダーシップ・トレーニング」や「平和の文化構築ワークショップ」などに焦点を当ててプログラムを展開しました。結果、デンマークのユースコンボケーションは大成功でした。そしてそこに参加した若者はとても有意義な時間を過ごしました。ユースは大きな第一歩を踏み出したと思いますし、またワイズの一員であることに誇りを持つことができました。

ジュネーブに来て以来、私は有能なファシリテーターと協力的なエリアユース代表たちと共に良きチームプレーであるかと努力してきました。我々のチームは最高でした。常に緊密に連絡を取り合いユース・コンボケーションに対する意見を交換して進めることができました。時には協力不足を感じたりコミュニケーションが

上手くいかなかったことでガッカリしたこともあります。でも私はお互いを信頼、励まし合い、元気づけることが生産的なチームワークの鍵であると考えました。私は「リーダー」というより「モチベーター」になろうと思いました。

ジュネーブにいる間に、世界のワイズメン代表との会合が二回ありました。一つはミッド・イヤー・ミーティング(MYM)でした。そこで私はユースインターンとしてのプレゼンテーションを皆さんの前でしました。ワイズのリーダーたちは、ワイズユース運動の発展に目を

見張ってくれて励ましてくれました。そこにきていたワイズリーダーがワイズ運動に深くかかわっている事を知りました。彼らのエネルギーであり熱意であり、献身的働きがワイズ運動を発展させる秘訣なのでしょう。私は奢り高ぶらないDale Fatheringham氏やLasse Bergstedt氏のよう

なリーダーに会えたことを本当に光栄に感じます。お二人はワイズワールドで読む「有名人」と思っていました。でも今、お二人の影響や威厳は国際会長という立場からくるのではなく、お二人の謙虚さ、働きなどから醸し出されるのだらうと思います。

国際本部で「国際的な思考」を学びました。国際書記のロランド氏は常に「長期計画」ということばを口にします。そして「グローバル・マインド」を持つようにとっています。国際本部は8つのエリアと交信をしていますが、文化の異なる国々と共に働くためには良いコミュニケーション能力を持つ必要があると痛感しました。また国際レベルで共に働くことを学びました。そしてワイズメンを包括的に見るできるようになりました。

国際本部で過ごした事は、私にとって幸せな経験でした。そしてユースインターンであれたことを光栄に思います。私のスイスの両親であるロランドとグロリア・ダumasご夫婦、そして私の仲間であったキャロル、ポーリン、そしてアンドリュウに感謝します。皆さんから得た友情とサポートに感謝します。



隠れた奉仕、ユースコンヴォケーション、国境なき奉仕

隠れた奉仕

国際本部 Pauline Gross

オーストラリアの Ballarat クラブの Murray Stevens 氏は 1983 - 1985 の IBC・国際サービス・ディレクター (ISD) でした。それ以来、IBC のプログラムは Stevens 氏の心を捕らえ、より強くワイズ運動にかかわるようになりまし。毎年ブラザー・クラブのリストを作り、全てのブラザークラブパートナーシップを記載してきました。

ブラザークラブの考えは 1947 年にさかのぼり北アメリカがスポンサーした海外のクラブにピンを贈ったことから始まります。1950 年までには、83 のパートナーシップができ、2002 年には 700 クラブ以上がこのプログラムに関わった事になりました。

今日、50 カ国で 1500 のパートナーシップができ、Murray Stevens 氏は、これらブラザークラブ、トライアングルクラブ、パートナーシップの記録を全て正確に取っており、クラブ間の理解、交流に力を注ぎ、ワイズ運動における親密な関係を育むことに陰ながら大きな支えとなっています。

第 12 回国際ユースコンヴォケーション

ユースインターン Aeree Baik

合計 19 カ国から 82 人のユース代表が「持続可能な未来のため」という標語の下に、デンマークの Himmerum Agroskole に集まりました。有意義な話し合い、アイデアの分かち合いなど、それぞれの親交を新たにすすばらしい 7 日間でした。国際ユース委員は、現在のユースの課題、ユース代表の役割の明確化、コンボケーションのプログラムの最終仕上げなどのために、国際ユースコンボケーションに先立ち集まることができました。Trehøje クラブが全面的にこのユース委員をホストしてくれました。このことは、ワイズメンズワールドの次号に掲載します。どうぞお楽しみに。

国境なきサービス

Austin Lin (台湾、PAP)、石井一也 (日本、PAP) タイのチェンマイで、3 つのトライアングルクラブによる国境なきコミュニティサービスが始まりました。2008 年 2 月にチェンマイ、台北セントラル、東京セントラルのワイズ 14 人が集まり、チェンマイにある「バン、サンタクロース財団」のサンタの家を訪れ子供たちにプレゼントを贈り、財団には資金を贈呈しました。この財団は横浜 YMCA の理事であり、横浜ワイズメンズクラブのメンバーであった吉田 登氏によって設立され、タイの山岳少数民族のエイズ孤児のケアを目的としています。5 歳から中学 3 年生までの子どもたちがこの施設にいます。

一年前に、3 つの IBC がトライアングルを結んで以来、

共にできるコミュニティサービスを探していました。東京セントラルクラブのチャーターメンバーである石井一也元アジア会長と神谷幸男部長 (東京西クラブの CSD-IBS) がオースティン・リン元アジア会長 (台北セントラルクラブの CSD-IBS) と会った時に、バンサン財団のサンタハウスのサポートが話題になったのです。吉田氏は訪問した IBC のメンバーにこの財団の創立経緯を説明してくれました。



現在 14 人の子どもたちが財団の支援でここに住んでいます。また財団は 266 人の小学生に教育奨学金を出しており、鵜の家族を特別支援しています。参加者は吉田さんの努力に大変感動しました。サンタの家を離れる時、孤児たちは歌を歌って見送ってくれました。「天にいるお母さん、私たちのことは心配しないで。私たちは親切なお父さんとお姉さんたちと一緒に幸せに暮らしているよ。(親切なお父さんとは吉田さんのことで、お姉さんとは看護婦さんたちのこと)」。参加者は皆、目に涙を浮かべてこの歌を聴いていました。このトライアングル IBC は、エイズ孤児をサポートする目的で、他の国に対しても国境なきサービスを展開しようと誓い合いました。

コスタリカに光を

カナダ、オーウエン・サウンド Y サービスクラブ
ブライアン・ミニエリー

2008 年の年央議会で新たな TOF プロジェクトが承認され、カナダのオーウエン・サウンド・Y サービスクラブがその影の推進者になりました。同クラブは、国際的な提携者のグループと協力しながら、中央アメリカのコスタリカの先住民族の地域に太陽発電による電化プロジェクトを進めています。去る 6 月、コスタリカにサン



< 現在の照明方法 >

ノゼ Y サービスクラブがチャーターされました。同クラブは、今秋「コスタリカに光を」プロジェクトに提携し、オーウエンサウンドクラブと IBC を結ぶ予定です。

希望の灯となるう

2008年3月、中央カナダ区、オーウェン・サウンドクラブのメンバー、ブライアンとシャロンはコスタリカを訪れ、研修と開発活動を始めました。これは、最終的に原住民の地域の住民が自分たちの力でプロジェクトの運営ができるようにすることを目的としており、まさに「持続可能な開発」です。我々の働きは、太陽発電に関する研修からはじめました - どのように動かすのか、システムの設置と維持の方法など - 。そして、ビジネスサイドでは、開発中の地域の支援グループをつくり、各家庭とこのシステムの売買契約結び、使用者にシステムの手入れと使用について教えることをはじめました。



<新しいシステムの使用と手入れについての研修>

皆が欲しいのは、クリーンで、「無料」の電燈です。太陽発電は、煙を出し、危険な蝋燭や灯油に取って代わるものです。



<屋外、屋内での取付け>



子供たちは明るい LED の光で本を読んだり、宿題ができます。2年間で購入費を償却でき、その後は無料で長年使用ができます（時々バッテリーの交換が必要ですが）。我々から研修を受けたチームは、壊れたシステムの

希望の灯となろう

補修ができると同時に、バッテリーの回収も行いますので、それが新たな環境阻害の要因にはなりません。また、一つの家庭がシステムを一基購入しますと、その代金でもう一基のシステムが買え、次の家庭の購入に当てられます。そして、蝋燭や灯油を買うのに費やしたお金以下の出費で済みます。

オーウェンクラブは、この秋、もっと多くの照明システムを提供し、研修を継続し、より採算の取れるビジネスにしてゆく予定です。もっと多くの先住民の人々がこの照明方法を取り入れるようにこのシステムの設置を早めるよい方法を求めて、地元の小規模金融機関との協議も行う予定です。我々が研修を行ったチームメンバーと先住民の提携組織がこのプロジェクトの方向性を今後も引き継いでやってくれることを期待しています。現地の Y サービスクラブはこの支援のために活動します。また、オーウェン・サウンドクラブも援助を惜しみません。



ワイズメンズワールド

2008/09年度 第1号

発行者：ワイズメンズクラブ国際協会

東日本区理事：清水弘一

西日本区理事：佐藤典子

国際編集長：Alan Wallington, Bristol, England

日本担当副編集長：山川一郎

(掲載希望記事をどしどしお送り下さい)

日本版翻訳者

倉田正昭（京都）、谷川 寛（大阪センテニアル）

谷本秀康（東広島）長尾ひろみ（宝塚）

橋本和子（神戸）、山川一郎（姫路グローバル）

印刷所：(株)三浦印刷所

印刷版から OCR 読み取り再編集 by 十河



最も友情にあふれた集い

アメリカ地域会長 フレッド・レオナルド

それはデンマークの小さな都市での集まりでした。8月はじめ少なくとも1,100人の参加者が一同に会したHerningでの国際大会です。笑いとお抱擁と、部屋を横切って懐かしい友を見つけたときの喜びの叫びに満ちていました。沢山の言語が聞こえ、世界中の旗、祈り、そして色々なお国柄の装いが眼に入り、集いのざわめきが聞こえました。

交わりに加えて、ワイズメンたちは討論会、本会議、講演をとおして、また食卓でクラブ活動やプロジェクトについて語りワイズ運動を学びました。国際書記長のロランド・ダルマス氏から国際協会の現状報告を聞きました。YMCA世界同盟会長のMartin Meisser氏、総主事のBart Shaha氏はパートナーのYMCAについて話して下さいました。勿論、国際協会の指導者たち、国際会長V. S. Bashhir、前国際会長ラツセ・ベルシュテット、次期国際会長ケヴィン・カミングス氏がワイズの未来に向けて夢を語って下さいました・・・。会員数35,000、新しい地域への拡大、地域社会における奉仕活動の強化など。

元国際会長オーレ・ハンセン氏とラシエル・リーク女史は、ロールバック・マラリアという心に高揚を覚える新しい国連の協議団体としての立場で行う短期プロジェクトを、語って下さいました。

大会参加者は土曜日の午後、Hvide Silkeborg、オーフスのオールド・タウンへの小旅行を通して、デンマークを知る機会も与えられました。地元のワイズメンとワイズウイメンがガイドとして、歴史や生活様式、またデンマークの美術、文化について話して下さいました。

元国際会長Dale Fotheringham氏、Peter Leer氏のご指導の下に国際大会委員会と大会実行委貞会は綿密な計画を立て、共同作業を行い、周到な準備をして下さいました。その結果、大会は終始円滑に運営され、街も市民もあたたかく迎えて下さいました。

閉会式に残されたただ一つの言葉、それは

「2010年横浜で会いましょう」

でした。

